第３学年「よりよいくらしについて話し合おう」単元構想図

課題を持つ

教材名や写真に興味を持ち、自分の考えを持つ。

盲導犬について知っていることを話し合う。

既習の説明文における学習の仕方を振り返る。

１次　教材文を読んで単元の課題をつかみ、学習への見通しを持つ。
・初発の感想から、学習計画について話し合う。
・盲導犬についてなどの話し合いのテーマを決めて友だちと討論し合うという相手・目的意識を持つ。

確かに読み取る

２次　教材文の構成をとらえ、盲導犬について読み取る。
・教材文の「はじめ」「中」「終わり」の構成をとらえる。
・「はじめ」の部分を読み取る。
・段落ごとに盲導犬の訓練の内容を読み取る。
・「終わり」の部分を読んで、盲導犬についてまとめ、自分の考えを持つ。

小学校学習指導要領解説
第３学年および第４学年「Ｃ読むこと」
①目標：目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。
②内容：アイエオ
③言語活動：読んだ内容などに関連した他の文章を読むこと、疑問に思った事などについて関係のある図書資料を探して読むこと

読み取ったことを生かす

３次　これまでの学習を振り返り、グループで、今後調べて話し合う内容を決め、自分の考えを伝え合う。
・盲導犬についてなどの話し合いのテーマに沿って図書資料等を活用して調べる。
・調べたことや自らの経験をもとに、自分の考えをまとめる。
・グループで話し合い、聞いている他の人と質疑応答をする。
・話し合いを振り返り、感想を伝え合う。

話し合いのポイント
・自分の伝えたいことをはっきりと伝える。
・理由や具体例を出す。
・話題に沿って話す。
・共通点や相違点に気づく。
・最後まで話を聞く。

第３学年国語科学習指導案

平成２０年２月７日
指導者　持本　静子

１．単元名　　よりよいくらしについて話し合おう
　　中核教材「もうどう犬の訓練」

２．単元について

本学級の児童（男子２名、女子７名、計９名）は、「つな引きのお祭り」で説明文の構成について、自分たちで教材文の内容を分ける活動をした。これによって話が変わるところに気づくことができ、より読みを深めることができた。話し合い活動では相手の意見を素直に聞き入れることが難しい児童が多く、グループとしての意見がまとまりにくい。そこで「話し合いの仕方」を作り、それを見ながら司会がグループ内での発言を促していく方法を取り入れた。互いの意見を聞き合うというところに重点を置き、その後、意見を聞いてもう一度自分の考えを出し合い、グループの意見としてまとめられるようにした。こういった話し合う活動を様々な教科で取り入れることによって、話し合うことへの抵抗感を減らし、話し合いに慣れ、意見を尊重し合いながらまとめるということが現在出来つつある。

本単元の教材文「もうどう犬の訓練」は、段落のまとまりがはっきりしており、盲導犬として一人前になるまでの訓練の様子が順序よく説明されている。子どもたちにとって親しみやすい動物の犬が、盲導犬という人間のために働く犬になるという過程には知らないことが多く、興味関心を高めながら読み進めることができる教材である。本文を読み取った後、様々な視点から疑問や課題意識を持ち、調べ活動や話し合いにつなげることができる単元である。

指導にあたっては、説明の順序を表す言葉に注目しながら、盲導犬が一人前になる過程を読み取っていきたい。そのため音読で一人読みやグループ読み、一斉読みを取り入れ、繰り返し読むことでさらに読みが深まるようする。また読み取りの後の調べ活動、話し合いの活動につなげるため、疑問や課題意識を持てるよう細かな箇所に目を配りながら読み取りを進めていきたい。話し合い活動では、今まで取り組んできたやり方を生かし、学級全体での多様な質疑応答ができるよう、個人の意見をしっかりと持てるようにしたい。また、本実践を通して本校児童の目指す姿に迫るために、以下の場の設定に心がけたい。

【かかわり合い】
・教材文に使用されている写真や、盲導犬についての資料を見ることによって、盲導犬に対しての興味関心を高めるとともに、盲導犬に対しての自分の意見を友だちと意見の交流をすることによって新たな考えを持ち、教材文への理解がより深まるようにグループ学習の場を設定する。

【自己を拓く】
・教材文の盲導犬について知り、盲導犬だけでなく、目や耳、体の不自由な人の生活についてなどの様々な視点から疑問や課題を見つけて調べ、話し合う活動に生かせるようにする。

【豊かな表現】
・音読や発表ではしっかりと声を出し自己表現ができるよう、相手意識を持たせていく。
・教材文から読み取った内容や自分で調べた疑問や課題について振り返り、よりよい暮らしに対する自分の意見を持ち、自分の言葉で表現する。

３．単元目標

〇説明の順序に注意しながら、段落の内容を正しく読み取る。
〇調べて分かったことや自分が考えたことをグループで話し合う。

４．単元の評価規準

ア　国語への関心・意欲・態度	イ　話す・聞く能力	ウ　書く能力	エ　読む能力	オ　言語についての知識・理解・技能
①盲導犬の働きに関心を持ち、進んで調べたり、話し合おうとしたりしている。	①自分の考えを整理して話したり、相手の考えと自分の考えの違いに注意したりしながら聞いている。	①書く必要のある事柄の収集や選択をしている。 ②目的に応じ、適切に書いている。	①説明の順序に注意しながら、段落の内容を正しく読み取っている。 ②自分の考えを持ち、一人一人の感じ方の違いに気づいている。	①状況や目的に応じた、適切な音量や速さで話す。 ②文の構成や、文章全体における段落の役割を理解している。

５．指導と評価の計画（全１４時間）

時間	学習活動	評価規準	方法
第一次（2）	教材文を読んで単元の課題をつかみ、学習への見通しを持つ。 ○新出漢字や難語句を学習したり、教材文を通読し、音読練習したりする。 ○写真を見て、盲導犬について知っていることを話し合い、本文を学習することに興味を持つ。	ア　国語への関心・意欲・態度 ①教材文の話題に関心を持ち、今後の学習に意欲をもって取り組もうとしている。	発言 ノート 音読
第二次（4）	教材文の構成をとらえ、盲導犬について読み取る。 ○「はじめ」「中」「終わり」の構成と、犬の特長と盲導犬の定義、しつけを読み取る。 ○段落ごとに盲導犬の訓練の内容を読み取る。 ○写真から訓練の様子を読み取り、一人前になった盲導犬がその訓練をどんな場面に生かすのか考える。 （本時３／４） ○盲導犬の訓練について整理し、まとめ、犬の特長を生かしている部分とおさえている部分を読み取る。	エ　読む能力 ①犬の特長とは何か、「犬」「もうどう犬」「ペットとしてかわいがられる犬」「はたらく犬」の関係を読み取っている。 ①盲導犬の訓練について、書かれている順序に気をつけながら、段落ごとに内容を読み取っている。 ②自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方の違いに気づいている。 ①盲導犬の訓練について、特長を生かしている点とおさえている点を読み取っている。 オ　言語についての知識・理解・技能 ②文の構成や、文章全体における段落の役割を理解している。	発言 ノート
第三次（8）	これまでの学習を振り返り、グループで今後調べて話し合う内容を決め、話し合い、聞いている他の人と質疑応答をする。 ○話し合いのテーマにそって資料を調べ、調べたことを発表できるように整理する。 ○調べたことや自らの体験などをもとに、自分の考えをまとめる。 ○意見や感想を発表し合い、話し合いの仕方について、分かったことをまとめる。	イ　話す・聞く能力 ①自分が疑問に思ったこと、もっと知りたいと思ったことを、相手に筋道を立てて紹介している。相手の意見を、自分の思ったことと比べながら聞いている。 ①調べたことを順序立てて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話す準備や練習をしている。 ①自分と相手の意見の相違点や共通点を比べながら、話し合っている。相手の伝えたいことは何かを考えながら聞いている。 エ　読む能力 ①必要な資料を探し、自分たちの疑問に対する解答となるような部分を見つけている。 オ　言語についての知識・理解・技能 ①状況や目的に応じた、適切な音量や速さで話す。 ア　国語への関心・意欲・態度 ①話し合いのルールを理解し、今後の活動に生かそうとしている。	行動観察 発言 ノート

６．本時の学習（５／１４）

（１）ねらい

もうどう犬の訓練について、具体的にどんな訓練をしているのか写真から読み取り、一人前になった時にどのように生かされると思うのか、自分の考えを持つ。

（２）評価規準

エ　読む能力

①写真と本文とを関連付けながら、それぞれの訓練の内容を正しく読み取っている。

②目の不自由な人の生活について自分の考えを持ち、友だちの意見を知る。

オ　言語事項

①状況や目的に応じた、適切な音量や速さで話している。

②接続詞に着目して段落の順序を理解し、文章構成について気づいている。

（３）準備　プロジェクター、パソコン、スクリーン

（４）学習過程

学　習　活　動	支　援　と　評　価
１．○前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しを持つ。 ２．○本時の学習のめあてを確認する。	○盲導犬の訓練や心がまえについて読み取った前時の学習を想起させる。
もうどう犬の訓練はどんな時に生かされるのだろう。	
３．○形式段落⑤～⑮を音読する。 ・全体での段落読み	○盲導犬の訓練について、それぞれの段落にどんな訓練が書いてあるのか意識しながら読むように伝える。
４．○Ｐ５１・５２・５３の写真を見て、気づいたことを発表する。 ・ハーネスがついている。 ・道にわざわざ木の棒がおいてある。 ・訓練をする人が変わっている。 ・電車の中では椅子の下にいる。など	○何をしているところか、それぞれの写真の違いは何か、など、訓練という言葉にこだわらずに気づいたことを発表させる。 ○写真が本文のどの訓練のことを指しているのかをつかませる。
○それぞれの気づきについて「もし～だったら？」どうなるのか考える。 ・犬は通ることができるけれど、人はぶつかってしまう。 ・目が見える人の訓練だけでは、実際使う人が大変なところに気づくことができず、危ない。	○それぞれの写真の訓練に対して、盲導犬の訓練が使う人のどのような場面を想定してできているのかを考えさせる。 （・もし盲導犬が木の棒を避けて歩かずにくぐってしまったらどうなるのだろうか？ ・もし訓練をする人が変わらなかったらどうなるのだろうか？） 【評価　エ①オ②　発言】
５．色々な訓練が、盲導犬が一人前になったときにどのような時に生かされると思うのか、「例えば」という具体例を出しながら自分の考えを持つ。	○盲導犬の訓練が、実際一人前としての仕事となったときに、どのような場面で生かされるのか想像させる。 ○本文を参考に、具体例の書き方を黒板に提示する。 ・たとえば、〈　　〉のとき（の所では）、使っている人が、〈　　〉ように、〈　　〉ます。 【評価　エ①　ノート】
６．グループでそれぞれの考えを交換し合い、全体でも発表する。 グループ→個人→全体発表 【か】【拓】	○お互いの意見を聞き合い、盲導犬を使う人の気持ちになってそれぞれの具体例について考えさせる。 ○具体例を抜かした本文を渡し、それぞれの考えた具体例がその訓練と合っているか確かめる。 ○友だちの意見を聞いて、新たに持った考えをノートにまとめてもいいことを伝える。 【評価　エ②オ①　発言・ノート】
７．本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。 【拓】	○本時のめあてについて自分を振り返らせる。 ○次時の活動について知らせ、見通しを持たせる。

「もうどう犬の訓練」関連図書一覧

書名	出版社	日野上	町立（県立）
デュエット　GUIDE DOG MAGAZINE　第１５号	全国盲導犬施設連合会	○	
聞こえにくい人のコミュニケーション	郵政互助会中国地方本部	○	
ともに生きる	鳥取県社会福祉協議会ボランティアセンター	○	
聴導犬ものがたり　捨て犬みかんとポチ	佼成出版社	○	○
盲導犬不合格物語	学習研究社	○	○
社会でかつやくする犬　聴導犬	すずき出版	○	○
社会でかつやくする犬　訪問活動犬	すずき出版	○	○
社会でかつやくする犬　介助犬	すずき出版	○	○
社会でかつやくする犬　訪問活動犬	すずき出版	○	○
社会でかつやくする犬　盲動犬	すずき出版	○	○
バリアフリーを考えよう	ポプラ社	○	○
はじめてであう点字１　指から広がる世界	岩崎書店	○	○
はじめてであう点字２　点字のことば百科	岩崎書店	○	○
はじめてであう点字３　点字で学ぼう	岩崎書店	○	○
はじめてであう点字４　点字のひみつ	岩崎書店	○	○

上から３冊は、リーフレット、パンフレット

説明文教材における単元目標と言語事項の系統表　・　第３学年　・　１月

単元名・教材名	よりよいくらしについて話し合おう　「もうどう犬の訓練」 ◆どのようなことが書かれているか、だんらくの内ように気をつけて文章を読みましょう。 ◆考えたことや調べたことを、グループで話し合いましょう。		
接続詞等	使われている文型・話形	文章構成に関すること	読みを深めるキーワード
・さいしょは ・次は ・たとえば ・ですから ・こうした	（ていねいな断定） ・～なのです。 ・～のです。 ・～です。 ・～ます。	序論　①②③ 盲導犬の役割 本論　④ しつけ ⑤⑥⑦⑧ 人の言葉に したがう訓練 ⑨⑩⑪⑫ 人を安全に 導く訓練 ⑬⑭ 心構え ⑮ 仕上げの訓練 結論　⑯ 盲導犬として のくらし	・はたらく犬 ・しつけ ・きびしい訓練 ・ハーネス ・くり返しくり返し ・心がまえ